# 事業計画策定に向けた論点整理

- 1. 松山駅交通拠点に求められる機能
- 2. 事業計画策定に向けた論点
- 3. 交通ターミナル機能(交通結節機能)
- 4. 交流機能(周辺のまちづくりとの連携、賑わい 創出・交通円滑化)
- 5. 防災機能
- 6. 整備·管理·運営手法

## 1.松山駅交通拠点に求められる機能

● 整備方針の実現、事業化に向けて、「交通ターミナル機能」、「交流機能」、「防災機能」、「整備・管理・運営手法」の観点から、事業内容の具体化に向けた検討を進める。

#### ◆整備方針と交通拠点に関する導入機能・手法の対応

		ただに 関する 等入機能・ 子広り 対心		導入機能など		
			Α	В	С	D
		整備方針	交通 ターミナル機能 (交通結節 機能)	交流機能 (周辺のまちづくり との連携、賑わい 創出・交通円滑化)	防災機能	整備・管理・
1	. 交通モード間の 接続(モーダル コネクト)の強化	<ul><li>バス、タクシー、一般車の乗降場・待機場などを集約</li><li>柔軟性のある交通結節点整備</li></ul>	0			
2	. 駅周辺地区の 交通円滑化	<ul> <li>鉄道高架や土地区画整理で創出される道路基盤の活用</li> <li>公共交通の定時性・速達性の確保や高速バスの増便、次世代モビリティの導入</li> <li>「松山市駅」とのアクセス強化</li> <li>適切な駐車場配置と公共交通の利便性向上による中心市街地への過度な自家用車流入の抑制</li> <li>バスターミナルの整備や大手町通りなどの機能強化による周辺道路の交通円滑化</li> </ul>	0	0		
3	. 移動利便性・ 回遊性の向上	<ul> <li>・次世代モビリティ導入などで、車がなくても移動しやすい 都市環境の創出</li> <li>・観光客などへの移動案内の充実や待合空間の確保など、 地域の魅力発信</li> <li>・駅前広場や大手町通りなどにおける賑わい・憩いの空間の 創出、回遊性向上などによる歩いて暮らせるまちづくりの推進</li> <li>・地域の素材を活用した、県都松山の陸の玄関口にふさわしい 景観形成</li> </ul>	0	0		
4	. 防災機能の 導入	<ul><li>・災害時などの帰宅困難者の受入れや、支援物資提供のための物資備蓄空間(機能)の確保</li><li>・鉄道被災時の代替として、支援の人や物資を運ぶバスの発着拠点</li><li>・防災教育や啓発による防災意識や防災行動の促進</li></ul>			0	
5	. 官民連携	<ul><li>・民間が持つ豊富な知見や資産などを活用した効率的・効果的な施設運営</li><li>・エリアマネジメントや地域デザインの推進</li><li>・公民学の連携による先進的な技術などの活用</li></ul>				0 1

## 2. 事業計画策定に向けた論点

● 松山交通拠点に求められる機能等を実現していく上での検討課題、論点を整理

	導入機能など		検討課題	論点		
٨	交通ターミナル機能 (交通結節機能)	1	JR松山駅における各交通モードの接続	・陸の玄関口であるJR 松山駅において、 各交通モードの接続をどのように強化すべきか。		
A		2	移動案内の充実と快適な待合空間	<ul><li>多様な利用者へ移動案内の充実や快適な待合空間 を提供するため、どのような待合機能を整備するか。</li></ul>		
	交流機能 (周辺のまちづくりと の連携、賑わい創出・ 交通円滑化)	1	松山駅周辺のまちづくりとの連携	・駅周辺の開発や集客施設整備などと連携しながら、 交流拠点の機能強化をどのように図るか。		
В		2	JR松山駅と松山市駅の連携	・JR松山駅と松山市駅との連携やアクセス性を どのように強化していくか。		
		3	歩いて暮らせるまちづくりの推進	・魅力的な駅前通りの形成や回遊性の向上に向け、 既存の道路空間をどのように活かしていくか。		
С	防災機能	1	JR松山駅の交通ターミナルの役割	・災害の発生に備え、駅前広場や周辺公共施設と 防災機能の役割を分担しながら、平時利用との 両立も図るよう、どのように整備し運用していくか。		
D	整備・管理・運営手法	1	官民連携	•交通ターミナルとして、施設の維持管理や運営、サービスの質をどのように持続可能にし、整備スキームを含めてどのような事業手法を構築するか。		

### 【検討課題】 A-1. JR松山駅における各交通モ─ドの接続

#### 論点 (案)

陸の玄関口である JR松山駅において、 各交通モードの接続を どのように強化すべきか。

#### 検討の方向性(案)

- 障がい者や交通弱者、手荷物の多い観光客等の利用を想定し、駅コンコース 等の近くに障がい者用乗降場やタクシー乗降場を確保する。
- 自家用車の送迎を安全かつ円滑に行えるスペースを確保するとともに、 長時間駐車や周辺の路上駐車を防止するため短時間駐車場の設置を検討する。
- 現状の運行水準、需要をベースに、将来的な需要増加も考慮し、適切な規模を検討する。
- スクールバスの安全な乗降に加え、インバウンドをはじめとした観光需要の 増加に対応するため、不定期バスの乗降場の確保を検討する。
- 特定車両停留施設への停留の可否や適否など法的要件や管理運営上の観点を 踏まえ、松山駅に必要なターミナル機能を検討する。
- 各交通モード間の乗り継ぎが円滑に行えるよう、近接化や平坦な動線による バリアフリー化を図る。

#### 検討項目(案)

- 交通ターミナルの導入機能、 規模、配置
- 特定車両停留施設の乗入対象 (※別紙参考資料)
- 交通ターミナル利用者の動線

#### ◆JR松山駅東口の交通機能の現状



出典:便数・路線数 四国旅客鉄道㈱ 伊予鉄道HPより

機能 規模 バス乗降 5箇所※ (路線バス) バス乗車 1箇所※ 都市間高速バス等 バス降車 1箇所※ (都市間高速バス等) バス待機 約5箇所% バス乗降 1箇所※ (不定期バス) タクシー乗車 2台分 タクシー降車 1台分 タクシー待機 約40台分 一般車駐車場 約18台分

駅周辺の バス乗場

ニタクシー乗車ニタクシー降車

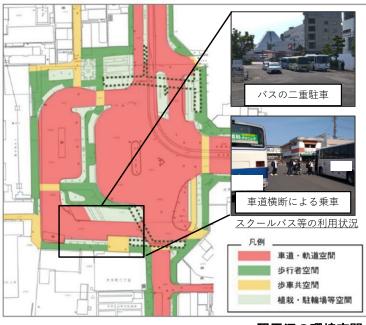
※:バス乗降は、停車枠数ではなく、 乗降場数を示す。

### 【検討課題】 A-1.JR松山駅における各交通モードの接続

#### ◆JR松山駅東口における交通結節空間としての現状の課題







駅周辺の環境空間

#### 電停アクセス

- ▶地下横断が必要であり、車いすやベビーカーの 利用者、高齢者にとってアクセスが困難 (バリアフリー面の課題)
- ▶新駅舎が西側に寄ったことで、駅と電停の距離が長くなっている。

#### (乗継利便性の課題)

▶電停の位置は視認できるが、ルートが直感的に わかりづらい。

(経路の案内性の課題)

#### バス停アクセス

- ▶駅と路線バスの乗り場の間で、道路横断が必要 (乗継利便性の課題、安全性の課題)
- ▶屋根やベンチなどの待合機能が十分に整備・更新されていない。

(利用快適性の課題)

#### 車両動線

- ➤ ターミナルへの流出入経路が複雑で、 変則交差点であるため、一般車の誤進入がある。 (動線誘導の課題、運用面の課題)
- ▶都市間高速バス、タクシー、一般車が、 同一の動線を通ることで、交通の阻害や 輻輳が見受けられる。

(動線分離の課題、運用面の課題)

#### 步行者動線

▶移動に車道横断や地下横断、迂回が必要な箇所がある。

#### (安全性の課題、利便性の課題)

▶屋根が連続していないため、天候の影響を 受けやすい。

(利便性の課題)

#### 環境空間

- ▶車道空間が多く、滞留空間や十分なイベントスペースが不足している。
  - (歩行者空間の不足の課題)
- ▶災害が激甚化する中、帰宅困難者が一時滞在できるスペースなど、大規模災害時の対応が求められる。 (防災機能強化の課題)

#### 不定期バス

▶鉄道の到着時刻に合わせ、スクールバス等の 送迎バスが運行されるが、十分なバスバースが 確保されていない。

#### (バスバース不足の課題)

▶二重駐車、三重駐車が発生し、車道を横断しての 乗車が見受けられる。

(安全確保の課題)

出典:第6回松山駅まち会議資料に加筆

### 【検討課題】 A-1. JR松山駅における各交通モードの接続

- 現状の運行水準、需要をベースに、将来的な需要増加も考慮し、適切な規模を検討する。
- スクールバスの安全な乗降に加え、インバウンドをはじめとした観光需要の増加に対応するため、 不定期バスの乗降場の確保を検討する。

#### JR松山駅と松山市駅の発着便数

交通機関 行き先等		項目(単位)	JR松山駅	松山市駅
都市間	四国外	発着便数(便/日)※	30	40
高速バス	県外~四国内	発着便数(便/日)※	54	54
	市外	路線数	3	5
   路線バス (市外便含む)	(新居浜·八幡浜· 久万高原町· 今治·宇和島)	発着便数(便/日)※	34	60
	市内	路線数	4	15
		発着便数(便/日)※	502	1074
11 / 2%	松山空港	発着便数(便/日)※	69	63
リムジンバス	松山観光港	発着便数(便/日)※	3	3



※ バスの便数は、発車数と到着数を合算し発着便数として示す。 一度の停留で乗降を同時に行う場合(路線バスの経由便)は2便として計上する。

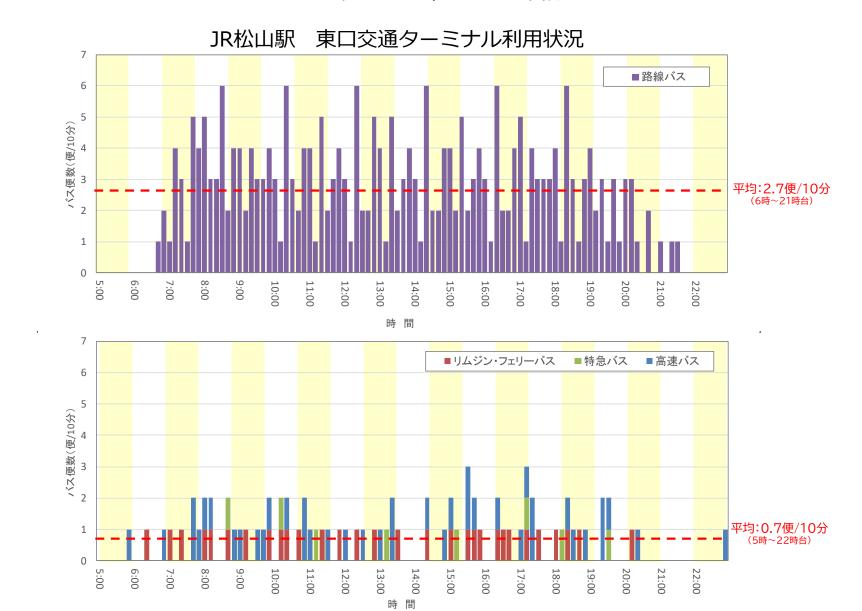
出典 便数・路線数:四国旅客鉄道㈱、伊予鉄グループHPより(R7.5.7時点) 乗降者数: 国土数値情報2022

#### JR松山駅(周辺地域含む)に乗り入れている不定期バス

利用施設	行き先等	午前 便数/時間帯	午後 便数/時間帯
	A校	計3台/8:05 3台同時	計3~4台/15時~、約1時間おき
	B校	1台/8:05	1台/17時頃
スクールバス	C校	1台/7:50 ※大手町通りでの乗車	計2台/16時頃、18時頃
	D校	計2台/9:15、11:25	計5台/10時~19時、約2時間おき
観光ツアーバス等	各方面	不定期	不定期
商業施設等	A施設	1台/9:30	1台/17時頃

### 【検討課題】 A-1.JR松山駅における各交通モードの接続

- 現状の運行水準、需要をベースに、将来的な需要増加も考慮し、適切な規模を検討する。
  - ※下図は時刻表のバス発車時刻を10分ごとに集計したものであり、 同時に停車するバス台数ではない。



### 【検討課題】 A-1.JR松山駅における各交通モ─ドの接続

- 各交通モード間の乗り継ぎが円滑に行えるよう、近接化や平坦な動線によるバリアフリー化を図る。
- 自家用車の送迎を安全かつ円滑に行えるスペースを確保するとともに、長時間駐車や周辺の路上駐車を 防止するため短時間駐車場の設置を検討する。
- スクールバスの安全な乗降に加え、インバウンドをはじめとした観光需要の増加に対応するため、 不定期バスの乗降場の確保を検討する。

一般車両が 中心市街地を通過せず 駅へ来訪できる

松山駅西口南江戸線から

- 一般車の乗降・ 短時間駐車
- タクシーの乗降
- タクシーの待機
- 商業施設の荷捌き

→東側 西側← 西口 東口 駅前広場 ■ 駅前広場 大手町通り 西口交通/駅 ターミナル、舎 東口交通 ターミナル

路面電車の電停を駅前広場に引き込み、 乗換えのバリアフリーや近接化

> 公共交通間の乗換えや 街へのアクセスが容易で、 イベントスペースによる賑わいがあり、 待ち時間を快適に過ごせる憩いの場

> > バスタプロジェクト (特定車両停留施設)

- バスの乗降
- バスの待機
- タクシーの乗降
- タクシーの待機

特定車両停留施設に入らない交通機能

- スクールバス
- 一般車の乗降・短時間駐車
- レンタカーの送迎
  - 商業施設の荷捌き

### 【検討課題】 A-1. JR松山駅における各交通モードの接続

- 特定車両停留施設への停留の可否や適否など法的要件や管理運営上の観点を踏まえ、松山駅に必要なターミナル機能を検討する。
- 障がい者や交通弱者、手荷物の多い観光客等の利用を想定し、駅コンコース等の近くに障がい者用乗降場や タクシー乗降場を確保する。

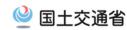
	配置方針	配置する	3 交通施設			
	16世 刀到	西口	東口			
路面電車	●道路内にある「JR松山駅前電停」を駅前広場内に移設する。 ●他の交通機関との乗り継ぎが円滑に行えるよう、近接化や 平坦な動線によるバリアフリー化を図る。		• 広場北東側に 電停を設置	具体的		
バス	<ul> <li>●バス停を東口に集約し、乗換えの利便性を向上を図る。</li> <li>●乗降場及び待機場は現状の運行水準をベースに、将来的な需要増加にも対応できるよう、余裕を持った規模を検討する。</li> <li>●スクールバスの安全な乗降に加え、インバウンドをはじめとした観光需要の増加に対応するため、不定期バスの乗降場の確保を検討する。</li> <li>●バスタプロジェクトを活用し、バスの発着効率化や案内表示の高度化、待合室の充実といった公共交通利用者サービスの向上を図る。</li> </ul>		<ul> <li>定期及び不定期 運行バスの乗降場を 設置 (路線バス、 リムジンバス、 都市間高速バス、 不定期バス)</li> <li>路線バス等の 待機場を設置</li> </ul>	な配置機能・	レイアウト検討	
タクシー	<ul> <li>●乗降場は、利用者の利便性を踏まえて、東□・西□に それぞれ配置する。</li> <li>●現状の需要をベースに、将来的な需要増加にも対応できる よう乗降場や待機場を確保する。</li> <li>●交通弱者や手荷物の多い観光客等の利用を想定し、 駅コンコース等の近くに乗降場を配置する。</li> </ul>	<ul><li>乗車場 (2バース)</li><li>降車場 (1バース)</li><li>待機場(12台)</li></ul>	• 乗車場 • 降車場 • 待機場	規模を検討		
一般車		<ul><li>身障者用乗降場 (1バース)</li><li>降車場(4バース)</li><li>短時間駐車場 (7台)</li></ul>	• 身障者用乗降場 • 降車場 • 短時間駐車場	利用者 ヒアリング 関係者		

出典:第6回松山駅まち会議資料に加筆 8

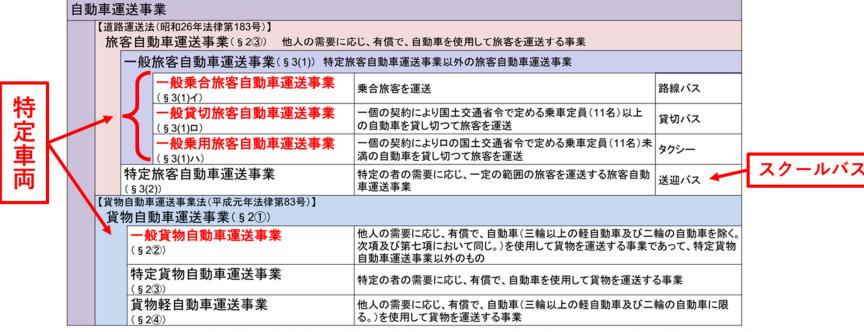
## (参考) 特定車両停留施設とは

特定車両停留施設は、令和2年の道路法改正により設けられた道路の附属物「道路法第2条第2項第8号」であり、 交通混雑の緩和や物流の円滑化のため、バス、タクシー、トラック等の事業者用の特定の車両を停留させるための施設

### 特定車両停留施設に停留できる車両の種類(現状)①



- 〇特定車両停留施設に停留できる車両(特定車両)は、国土交通省令(道路法施行規則)で規定(§2②(8))
- ○道路管理者は、特定車両の中から各特定車両停留施設を利用することができる車両の種類を指定し、公示 (§48の30)
- 〇特定車両停留施設に車両を停留させようとする場合は、車両ごとに道路管理者の許可を得ることが必要(§48 の32)



国土交通省資料より抜粋(第6回バスタプロジェクト推進検討会R7.3.17)

6

現在、松山駅前を利用しているスクールバスや一般車の送迎、 一般車の短時間駐車は、特定車両停留施設は停留できない。

## (参考) 特定車両停留施設とは

国では、特定車両として停留許可できる車両の追加が検討されている。

### 特定車両停留施設に停留できる車両の種類(対応後)

○前頁までの対応により、特定車両停留施設に停留できる車両を以下の通り位置づける。

	分類							
特定車両	路線バス	一般乗合旅客自動車運送事業						
特定車両 ・停留許可が必要。 ・停留料金を徴収 できる。	貸切バス	一般貸切旅客自動車運送事業						
	タクシー	一般乗用旅客自動車運送事業						
	トラック	一般貨物自動車運送事業						
	自治体が運行する無料 バス			#A*T		少人なエナわえい		
	交通空白地域での福祉、 周遊バス	自家用有償旅客運送				省令改正されると、   スクールバスは		
	その他の福祉車両	介護保険法、障害者総合支援法、児童福祉 法のいずれかによる事業を営む者が、利用 者を送迎するために運行する車両		➤ 省令改正		特定車両として停留できる許可の対象となる		
	送迎バス	特定旅客自動車運送事業等	$ \mathbb{J} $					
停留許可を	緊急車両							
要しない車両 ・停留許可が不要。	道路管理上必要な車両							
・停留料金を徴収	工事用車両					のような動きも踏まえながら、		
できない。	災害対策用車両			一告示発出	バスタプロジェクトの検討の中で			
	タクシー(降車のみ)				具	·体的に検討していく必要があ	る	
	PFI事業に必要な車両		٦J					

国土交通省資料より抜粋(第6回バスタプロジェクト推進検討会R7.3.17)

### 【検討課題】 A-2. 移動案内の充実と快適な待合空間

#### 論点 (案)

多様な利用者へ移動案内の充実 や快適な待合空間を提供するた め、どのような待合機能を整備 するか。

#### 検討の方向性(案)

- 案内表示の高度化や待合室の充実などにより、公共交通利用者の 快適性と利便性を高め、サービス向上を図る。
- 周辺施設との機能分担を踏まえ、待合空間に求められる機能や規模を 検討する。
- 乗降場との接続性やアクセス性を考慮し、利用者の動線に配慮した 待合空間の配置を検討する。

#### 検討項目(案)

・ 待合空間の導入機能、規模、配置

#### ◆現状の交通ターミナル機能の課題

- ▶ 屋根やベンチなどの待合機能・快適性の不足
- > 情報案内機能の不足
- > 待合空間までの導線の不便さ

<バス待合空間>



<情報案内>

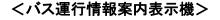




#### ◆利用者サービス向上を踏まえた施設検討

- > 天候に左右されない待合空間にトイレ・販売店など の利便施設を検討
- > 一元管理された情報をリアルタイムに提供
- > シームレスな乗換が可能な施設配置

<待合所>





高松駅高速バスターミナル待合





栄バスターミナル(オアシス21)

#### く食事・購買施設>



八重洲バスターミナル

### 【検討課題】 B-1. 松山駅周辺のまちづくりとの連携

#### 論点 (案)

駅周辺の開発や集客施設整備な どと連携しながら、交流拠点の 機能強化をどのように図るか。

#### 検討の方向性(案)

- 駅に集まる様々な人々のニーズを満たすため、松山駅周辺の施設が 一体となって調和のとれた利便性の高い空間とする。
- ・ 他の公共整備や民間開発とスケジュールを調整し、一体的な整備を 図る。

#### 検討項目(案)

- 松山駅周辺空間の機能分担
- 駅前広場や周辺施設との連携
- 周辺地域との連携



### 【検討課題】 B−2.JR松山駅と松山市駅の連携

#### 論点(案)

JR松山駅と松山市駅との連携や アクセス性をどのように強化し ていくか。

#### 検討の方向性(案)

- 既存の街路空間や路面電車や郊外電車などの公共交通を活かし、 松山駅と松山市駅のアクセスを強化する。
- 路面電車の引込みなどの東口駅前広場の整備にあわせ、駅前交差点の コンパクト化や地下道の見直しとともに、大手町通りの賑わい・憩い 空間の創出や回遊性向上を図る。
- 既存公共交通や徒歩での移動を補完し、移動の選択肢を広げる新たな モビリティサービスの導入により、多様なニーズへの対応を目指す。

#### 検討項目(案)

- 公共交通利用の推進
- 拠点間のアクセス強化
- 賑わい・憩い空間形成
- 新たなモビリティの導入可能性



### 【検討課題】 B−3. 歩いて暮らせるまちづくりの推進

#### 論点(案)

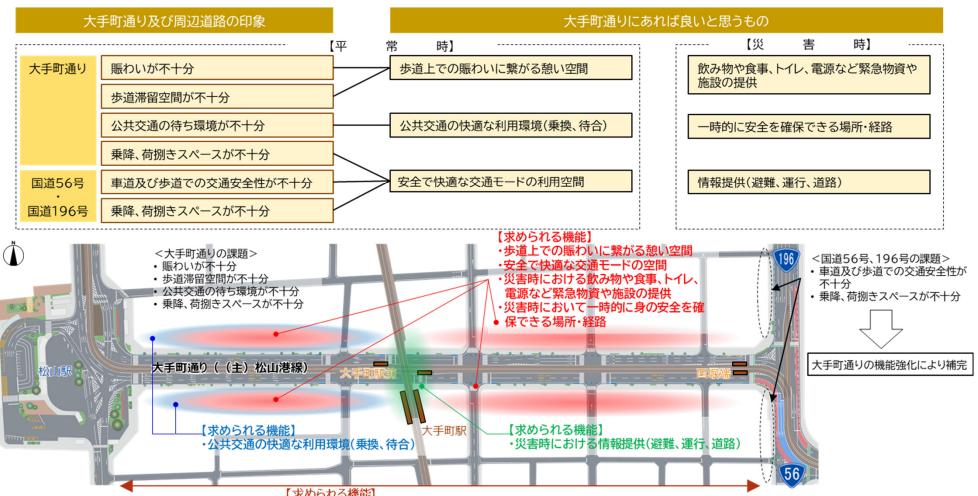
魅力的な駅前通りの形成や回遊 性の向上に向け、既存の道路空 間をどのように活かしていくか。

#### 検討の方向性(案)

- JR松山駅と松山市駅との交通拠点機能強化を目的に、大手町通りの あり方や整備の方向性を検討する。
- 大手町駅 (郊外電車) や大手町駅前停留場 (路面電車) の バリアフリー化を検討する。

#### 検討項目 (案)

- 社会実験の実施
- 大手町通りの役割と整備・活用 方針



【求められる機能】

・安全で快適な多様な交通モードの利用空間

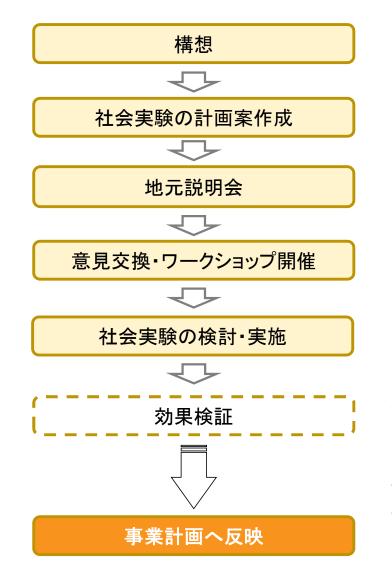
(自動車、自転車、歩行者、パーソナルモビリティ、超小型モビリティ、荷捌き)

※災害時の機能については沿道施設との 連携も視野に入れて検討。

### 【検討課題】 B-3. 歩いて暮らせるまちづくりの推進

#### ◆社会実験構想内容◆

大手町通りにおける賑わい・憩い空間の創出や回遊性向上により、 松山市の歩いて暮らせるまちづくりを推進

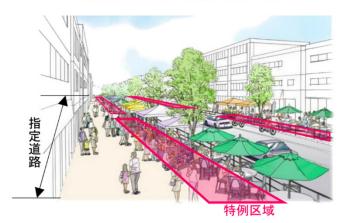




### ~歩行者利便増進道路~ 「ほこみち」

「地域を豊かにする歩行者 中心の道路空間の構築」を目 指すものであり、歩行者の安 全かつ円滑な通行及び利便 の増進を図り、快適な生活環 境の確保と地域の活力の創 造に資する道路を指定するも のです。

#### 歩道に賑わい空間をつくる「ほこみち」制度、全国で3市が初指定



「ほこみち」で指定された特例区域のイメージ(資料:国土交通省)

### 【検討課題】 C−1. JR松山駅の交通ターミナルの役割

#### 論点 (案)

災害の発生に備え、駅前広場や 周辺公共施設と防災機能の役割 を分担しながら、平時利用との 両立も図るよう、どのように整 備し運用していくか。

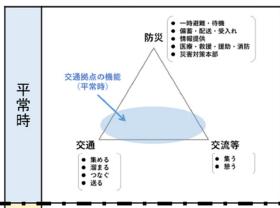
#### 検討の方向性(案)

災害時の一時避難や帰宅困難者の一時滞在、物資の備蓄など について、駅周辺施設で役割分担を明確にする。

#### 検討項目(案)

- 災害時に交通拠点が担うべき機能
- 平常時と災害時の空間活用イメージ
- 大規模災害発生時における広域輸送 の考え方
- 代替輸送のイメージ

■平常時/災害時の交通拠点の機能



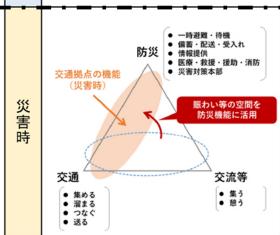






JR松山駅現況写真

松山市車両基地跡地広域交流拠点施 設基本計画



出典元: 交通拠点の機能強化に関する計画 ガイドライン(2021年3月国土交通省)



出典元: 大規模地震の発生に伴う帰宅困難者 八重洲バスターミナル デジサイ 対策の取組事例集(2018年3月内閣府)





出典元) 国道2号等 神戸三宮駅前空間の事業計画



▲ 引用:物資調達・輸送について 内閣府(防災担当) 令和6年能登半島地震を踏まえた 災害対応検討ワーキンググループ(第4回) 資料



▲引用:いしかわ総合スポーツセンター 1.5次避難所「令和6年版防災白書」

## 6. 整備•管理•運営手法

### 【検討課題】 D-1. 官民連携

#### 論点(案)

交通ターミナルとして、施設の 維持管理や運営、サービスの質 をどのように持続可能にし、整 備スキームを含めてどのような 事業手法を構築するか。

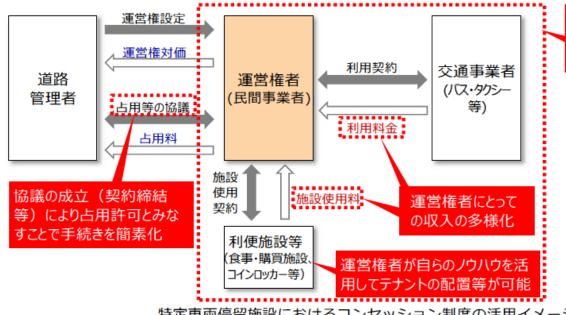
#### 検討の方向性(案)

- 施設の収支や維持管理の負担を見据え、持続可能な運営を実現できる 現実的な規模やサービス水準を検討する。
- 効率的で効果的な施設運営を図るため民間事業者が参画しやすく、 また交通事業者にとっても運行しやすい仕組みを検討する。
- 整備にかかる費用の抑制や時間の短縮を図るとともに、民間のノウハ ウを活用しやすい整備スキームを検討する。

#### 検討項目(案)

- 官民連携の方針
- 官民連携手法
- 整備スキーム
- スケジュール

◆特定車両停留施設におけるコンセッション制度の活用イメージ



特定車両停留施設におけるコンセッション制度の活用イメージ

ターミナル部分と利便施設 の一体運営による、利用促 進と収益最大化

- ○道路法改正(令和2年5月)によって、特定車両停留 施設で、施設の管理運営を民間事業者等が行う「コン セッション (公共施設等運営権)制度」を活用可能。
- ○コンセッションは、利用料金の徴収を行う公共施設につい て、施設の所有権を公共主体が有したまま、施設の運営 権を民間事業者に設定し事業を行う方式。
- ○公的主体が所有する公共施設等について、民間事業者 による安定的で自由度の高い運営を可能とすることにより、 利用者ニーズを反映した質の高いサービスを提供。